

CoStr 関数

数値指定で複数の連続しない列を選択する事が出来ないので、数値を列記号に変換する関数です。

構文

CoStr(始列番号[, 終列番号]))

引数について

始列番号

Excel 2003 以前は「1」～「256」、Excel 2007 以降は「1」～「16384」を指定します。

終列番号

Excel 2003 以前は「1」～「256」、Excel 2007 以降は「1」～「16384」を指定します。

省略した場合は「始列番号」と同じものが指定されたものとして処理されます。

使用例 (灰色の物は最後のような使い方が出来るのでこの関数は不要です)

```
Columns(CoStr(2)).Select ⇔ Columns("B:B").Select ⇔ Columns(2).Select
```

```
Columns(CoStr(2, 4)).Select ⇔ Columns("B:D").Select ⇔ Range(Columns(2), Columns(4)).Select
```

```
Range(CoStr(2) & "," & CoStr(5, 8)).Select ⇔ Range("B:B,E:H").Select
```

```
Range(CoStr(2, 3) & "," & CoStr(5, 8)).Select ⇔ Range("B:C,E:H").Select
```

※ もちろん数字の部分は変数を使う事が出来ます。

コードの説明

Cells(1, 列番号).Address(False, False) で A1 形式の文字列が返り行番号の桁数は 1 桁に固定出来るのですが、記号が何文字になるかが判らない為 Mid 関数が使えない。そこで StrReverse 関数を使い反転させて Mid 関数を使い、行番号の部分を削除してもう一度 StrReverse を使って元に戻しています。

間違いのご指摘や質問などの連絡は「 lucky_333@nifty.com 」へメールでお願い致します。

アップデートなど最新情報は H P (<https://luckshp.web.fc2.com>) の「和暦変換」を確認して下さい。